

トヨタ 2000GT

# TOYOTA 2000GT

見る者を魅了する流麗なフォルム。  
日本車史上、もっとも美しいスタイル。

1:10 SCALE

全長 417mm

11



今なお語り継がれる伝説のグランドツーリングカーを再現！

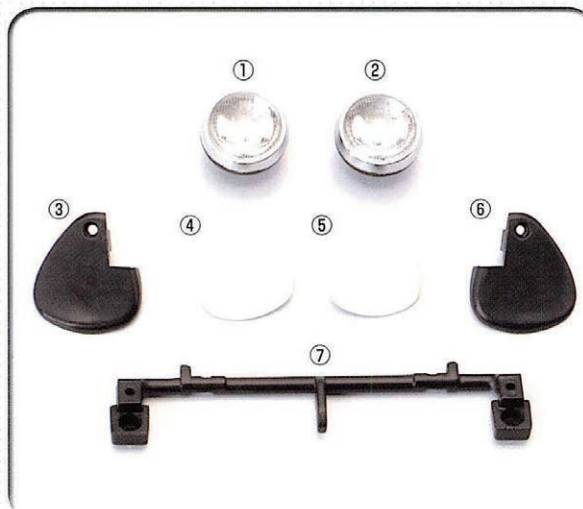
  
DeAgostini  
COLLECTIBLES

54号

# ヘッドライトを仮組みする

今号では、2000GTの特徴の1つである「リトラクタブルヘッドライト」の仮組みを行う。実車ではモーターによって開閉するヘッドライトだが、モデルでは金属製のバーで左右を連動させるシンプルな構造にアレンジしている。後の固定作業がスムーズに行えるよう、今号の仮組みで構造を把握しておこう。

## 今号のパーツ



- ①ヘッドライト左×1
- ②ヘッドライト右×1
- ③リトラクタブルリンクカバー左×1
- ④ヘッドライトカバー左×1
- ⑤ヘッドライトカバー右×1
- ⑥リトラクタブルリンクカバー右×1
- ⑦リトラクタブルリンクバー×1

### 使用する道具

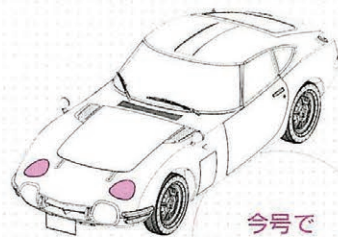
・特になし

### 用意するもの

・特になし

### あると便利な道具

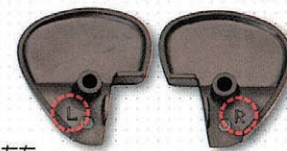
・マスキングテープ



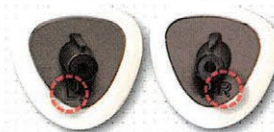
今号で作業する箇所

1

リトラクタブルリンクカバー左右



ヘッドライトカバー左右



ヘッドライト左右



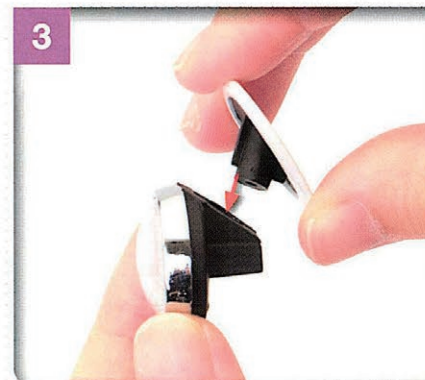
③リトラクタブルリンクカバー左と⑥リトラクタブルリンクカバー右、④ヘッドライトカバー左と⑤ヘッドライトカバー右、①ヘッドライト左と②ヘッドライト右を用意し、各パーツの裏側をチェックしよう。それぞれに「R(右)」 「L(左)」の刻印があり、右用と左用を容易に区別できるので、事前に確認しておこう。

2

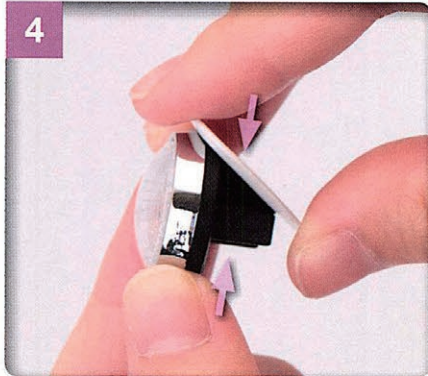


ヘッドライトカバー左とヘッドライト左を用意し、取り付け位置を確認する。ヘッドライト左の裏面に設けられた取り付け穴と、ヘッドライトカバー左裏面のポスト部はかみ合うようになっている。

3



ヘッドライト左を写真のように持ち、真上からヘッドライトカバー左を差し込む。



ヘッドライトカバー左を押し込む。簡単に抜けてしまっても、後にビスを使って固定するので問題はない。



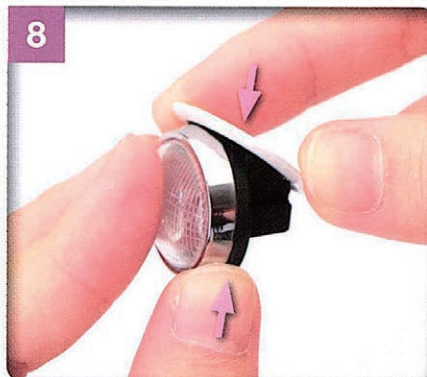
⑦リトラクタブルリンクバーを用意し、写真に示した位置に④で仮組みしたヘッドライトをセットする。リトラクタブルリンクバーには表面と裏面があるので、写真を参照してほしい。



写真のように、ヘッドライト左の底面に設けられたくぼみに、リトラクタブルリンクバー先端の“四角い出っ張り”をはめ込む。



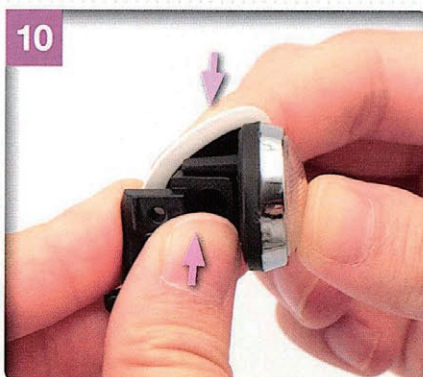
ヘッドライトカバー左をしっかりを押さえ、リトラクタブルリンクバーの四角い出っ張り部分を裏側から押し込んで仮組みする。簡単に外れてしまう場合は、マスキングテープを軽く巻き付けておこう。



②～④の手順と同じ要領で、ヘッドライト右にヘッドライトカバー右を差し込んで仮組みする。



⑥と同じ要領で、ヘッドライト右の底面に設けられたくぼみに、リトラクタブルリンクバー先端の“四角い出っ張り”をはめ込む。



⑦と同じ要領で、ヘッドライトカバー右をしっかりを押さえ、リトラクタブルリンクバーの四角い出っ張り部分を裏側から押し込んで仮組みする。こちらも簡単に外れてしまう場合は、マスキングテープを軽く巻き付けておく。

### 今号の完成



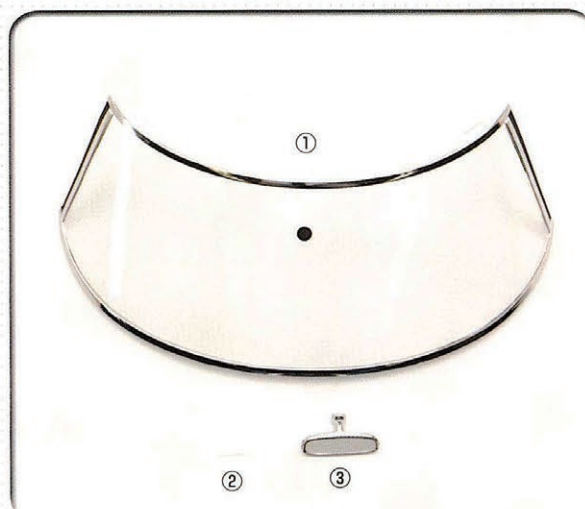
これで今回の作業は完了だ。仮組みしたヘッドライトは、後にビスを使って固定してからボディに取り付ける。リトラクタブルリンクカバー左とリトラクタブルリンクカバー右は、その際に取り付けるので、紛失しないよう大切に保管しておこう。

55号

# フロントウインドウに ルームミラーを取り付ける

今号では、「フロントウインドウ」の内側に「ルームミラー」を取り付ける。一体成型されたダイキャスト製ボディの提供が近付き、いよいよ組み立て作業も佳境に入った。作業のポイントは、ルームミラーを取り付ける角度だ。自分が運転席に座ったつもりになって、好みの角度に取り付けよう。

## 今号のパーツ



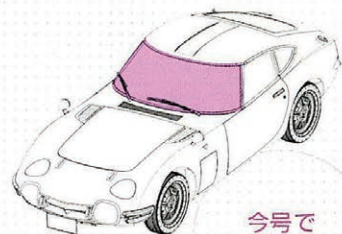
- ①フロントウインドウ×1
- ②両面テープ×1
- ③ルームミラー×1

### 使用する道具

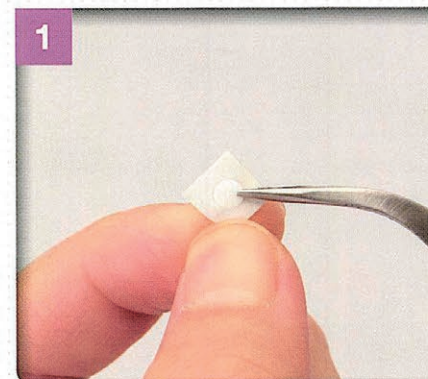
・ピンセット(2号で提供したもの)

### 用意するもの

・ビニール袋(パーツが入っていた袋で可)



今号で  
作業する箇所

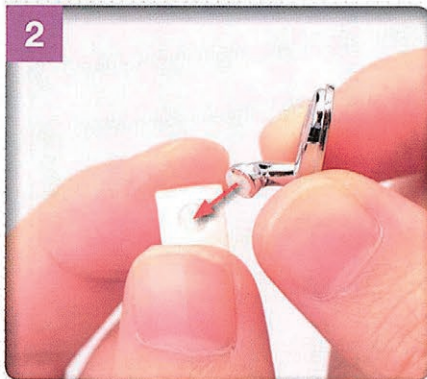


②両面テープを用意し、白い面中央の、円形の紙だけをピンセットではがす。紙の下には粘着テープがあるので、それを一緒にはがさないよう注意すること。

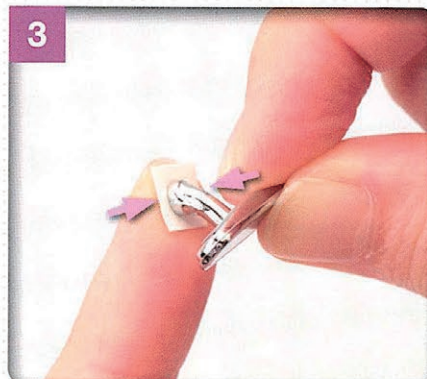
## Parts in focus



TOYOTA2000GTのフロントウインドウには、大きく弧を描いた曲面ガラスが採用されている。しかし往時の市販車の場合、フロントAピラーの後ろに「三角窓」を備えるのが一般的なスタイルなので、TOYOTA 2000GTのそれは極めて斬新なデザインだといえる。モデルでは、透明な樹脂パーツ+メッキリムにより、曲面ガラスの雰囲気再現している。



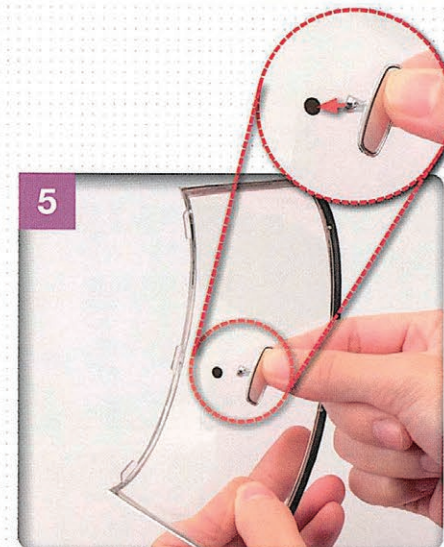
② ルームミラーを用意し、①で中央の円形の紙をはがした部分に、写真の取り付け部を合わせてセットする。



両面テープにルームミラーを押し付けて、円形に切り取られている粘着剤をルームミラー側に貼り付ける。



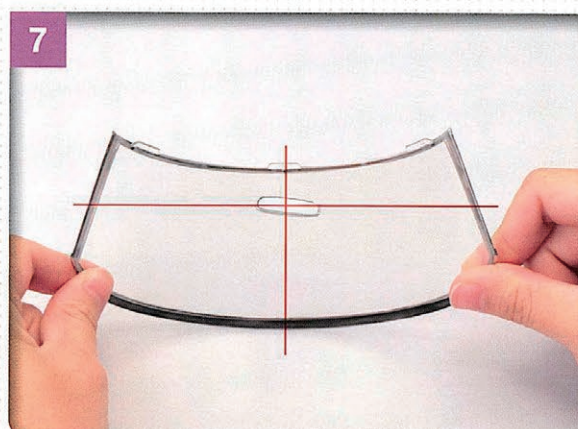
④ ルームミラーをゆっくりと両面テープからはがし、取り付け部に粘着剤が貼り付けられていることを確認する。



① フロントウインドウを用意し、写真で示したウインドウ内側の黒いマーク部分に、ルームミラー取り付け部を合わせる。



⑥ ルームミラー取り付け部をフロントウインドウ内側の黒いマーク部分に押し付け、取り付け部の粘着剤で固定する。写真のように“フロントウインドウの外側”から見て、取り付け位置を確かめながら作業しよう。取り付けの際は、ルームミラーの角度を好みの角度に調整しておこう。



⑦ ルームミラーを取り付けた状態。自分が運転席に座った場合を想像して、好みの角度になっているか確認しよう。

### 今号の完成



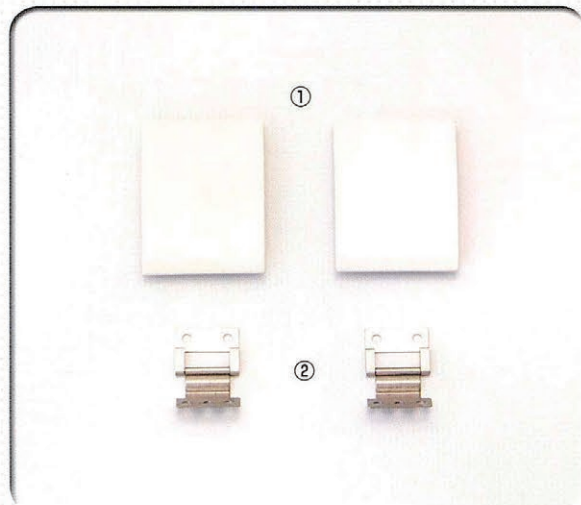
これで今回の作業は完了だ。両面テープの粘着剤だけを移す作業は、落ち着いて行えば決して難しい作業ではない。なお、完成したパーツは“裏返し(ルームミラーを上にした状態)”にしてビニール袋に入れ、平らな台の上に置いて保管しよう。

56号

# 左右サーブスリッドを 仮組みする

今号では、ボディ左右に設けられている「サーブスリッド」に「サーブスリッドヒンジ」を取り付け、マスキングテープによる仮組みを行う。サーブスリッドの左右は、一体成型されたダイキャストボディが提供されてから確認を行うので、今回はヒンジを仮留めし、可動部の動作確認を行うことが目的だ。

## 今号のパーツ



①サーブスリッド×2  
②サーブスリッドヒンジ×2

### 使用する道具

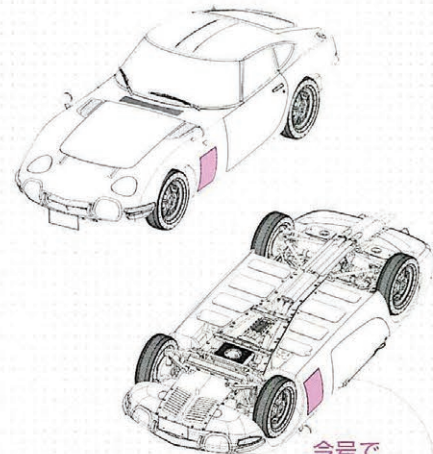
・特になし

### 用意するもの

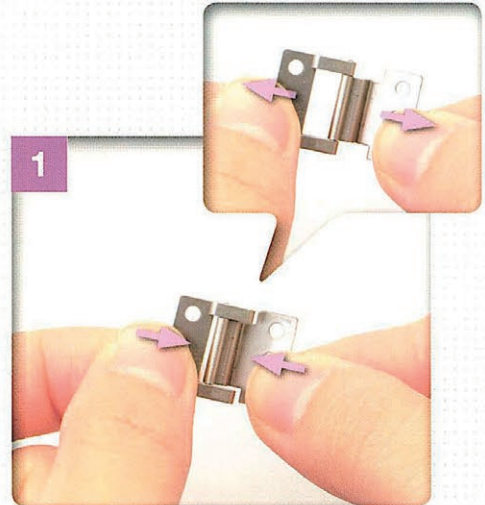
・マスキングテープ

### あると便利な道具

・ホビー用ダイヤモンドヤスリ



今号で  
作業する箇所



1

②サーブスリッドヒンジを用意し、写真のように接合部をスライドさせて、動作を確認する。引っ掛かりがある場合は何回かスライドさせて、スムーズに動くようにしておく。



2

この部分の形状を  
見て確認する

①サーブスリッドを用意し、裏面の下部に設けられた取り付け部に、サーブスリッドヒンジをセットする。サーブスリッドヒンジの向きは写真を参照しよう。



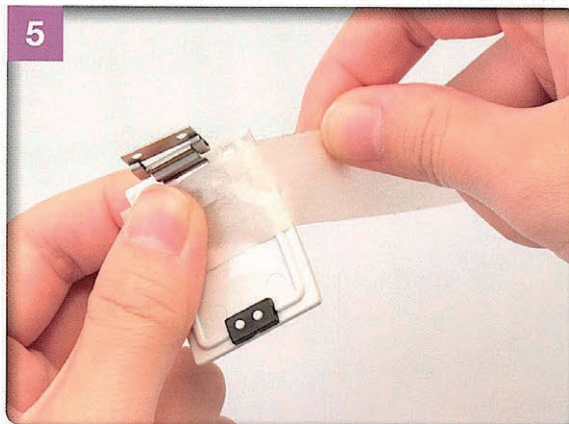
3

サーブスリッドヒンジを取り付け部に押し込む。取り付け部には短い2本のガイドピンがあり、それがサーブスリッドヒンジの取り付け穴にはまるようになっている。



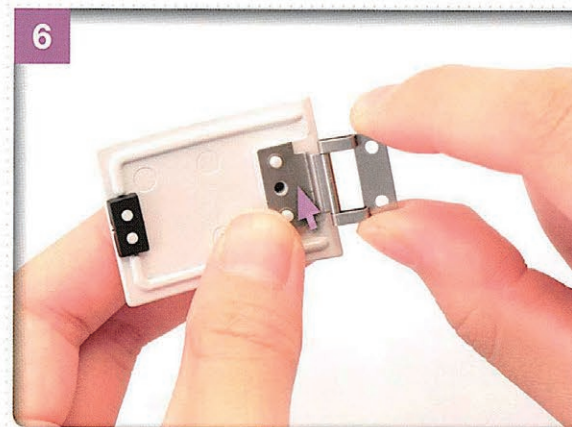
4  
この部分のすき間が大きい場合は、  
ガイドピン付け根部分の塗料を  
ダイヤモンドヤスリで削る

サービスリッドヒンジを取り付け部に押し付け、横から見て“すき間”が空いていないことを確認する。すき間が空いている場合は、ガイドピンの付け根部分に塗料がたまっているので、ホビー用ダイヤモンドヤスリを使い、塗料を削り落としながら、すき間がなくなるよう調整しよう。



5

サービスリッドヒンジをすき間なく取り付けたら、マスキングテープを使ってサービスリッドヒンジを仮留めする。



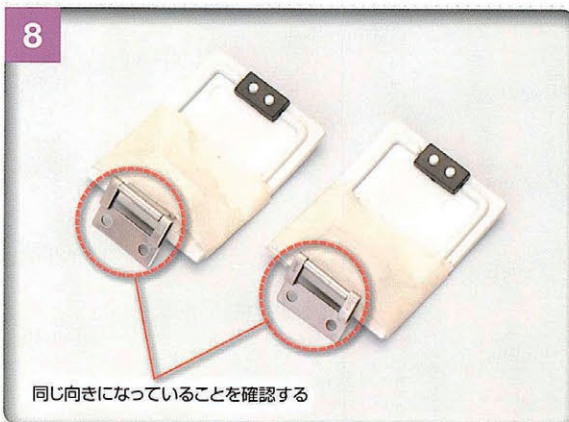
6

2～4と同じ要領で、もう片方のサービスリッドにもサービスリッドヒンジを取り付ける。このときも、サービスリッドヒンジの向きを間違えないよう注意しよう。



7

5と同じ要領で、マスキングテープを使ってサービスリッドヒンジを仮留めする。



8

同じ向きになっていることを確認する

サービスリッドヒンジの仮組みが終わったら、2個を並べてサービスリッドヒンジの取り付け方が同じになっていることを確認しておこう。

### 今号の完成



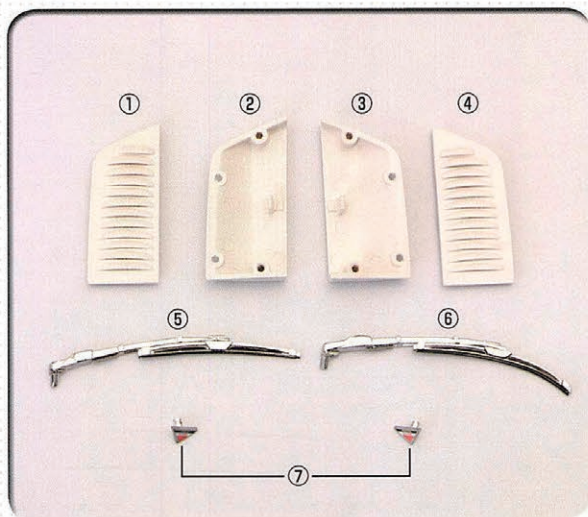
これで今回の作業は完了だ。サービスリッドは実車の外観上の特徴でもあるので、パーツ表面に傷を付けないよう大切に保管しておこう。

57号

# エアインレット&エアアウトレットを 組み立てる

今号では、フード後方の左右に配置された「エアインレット」および「エアアウトレット」を組み立てる。車体左側のエアインレットは取り入れた空気をエアフィルターに送る役目を、右側のエアアウトレットはエンジンルームの熱を排出する役目をそれぞれ担う。デザイン上のアクセントにもなっている重要なパーツだ。

## 今号のパーツ



- ①エアインレット×1
- ②エアインレットベース×1
- ③エアアウトレットベース×1
- ④エアアウトレット×1
- ⑤左ワイパー×1
- ⑥右ワイパー×1
- ⑦側面エンブレム×2

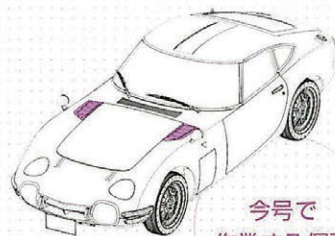
※⑤～⑦は今回使用しないので、大切に保管しておこう。

### 使用する道具

・特になし

### 用意するもの

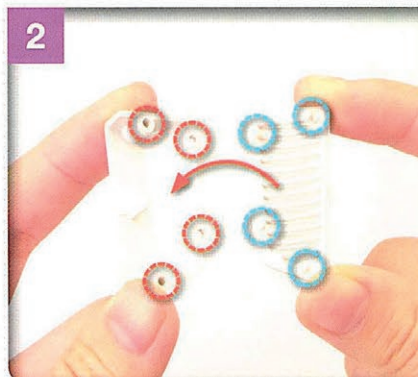
ビニール袋(パーツが入っていた袋で可)  
油性ペン



今号で  
作業する箇所



⑤左ワイパー、⑥右ワイパー、⑦側面エンブレムは、今回の作業では使用しない。デリケートなパーツなので、ビニール袋を開けずに保管しておこう。



①エアインレットと②エアインレットベースを用意し、取り付けピンと穴の位置を確認する。



エアインレット裏面の取り付けピン(4本)を、エアインレットベース側の取り付け穴に合わせてセットする。





4

パーツを真っすぐに押し込んで固定する。斜めに傾いた状態で押し込むと、取り付けピンを破損する恐れがあるので注意しよう。



5

③エアアウトレットベースと④エアアウトレットを用意し、取り付けピンと穴の位置を確認する。



6

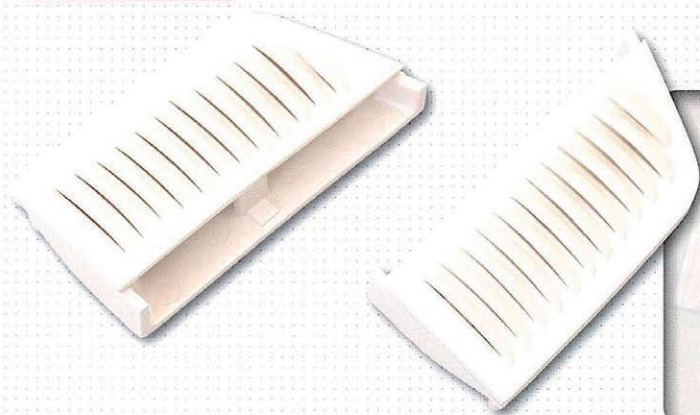
エアアウトレット裏面の取り付けピン(4本)を、エアアウトレットベース側の取り付け穴に合わせてセットする。



7

④と同じ要領でパーツを真っすぐに押し込み、固定する。

### 今号の完成



これで今回の作業は完了だ。実車のエアインレット&アウトレットは、ボディシェルとエンジンコンパートメントのクリアランスを利用して構成されるが、本モデルの場合は組み立てやすさを優先させるため、外観のみを再現した仕様になっている。



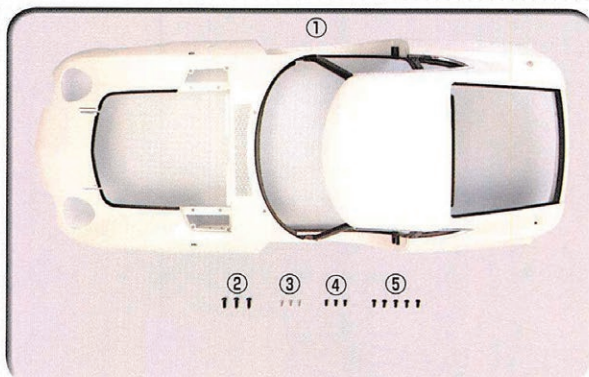
組み立てたパーツおよび未使用のパーツは油性ペンで号数を記したビニール袋に入れ、大切に保管しておこう。

58号

# ボディ各部のチェックをし、 ヘッドライトとフロントグリルを 組み立てる

今号では、ヘッドライトとフロントグリルを組み立て、提供されたダイキャスト製ボディをチェックする。一般的には分割するボディサイズだが、本シリーズでは流麗なフォルムの再現を重視して一体成型とした。そのため、部分的にバリが残っていることもあるので、各部を入念にチェックし、必要に応じて小加工を施そう。

## 今号のパーツ



- ①ボディ×1
- ②ビス(EEタイプ)×3(※1本は予備)
- ③ビス(HHタイプ)×3(※1本は予備)
- ④ビス(Oタイプ)×3(※1本は予備)
- ⑤ビス(Pタイプ)×5(※1本は予備)

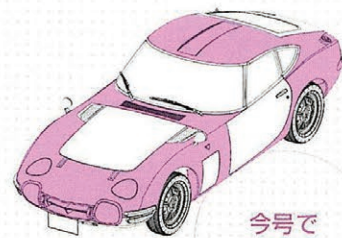
※②は今回使用しないので、大切に保管しておこう。

### 使用する道具

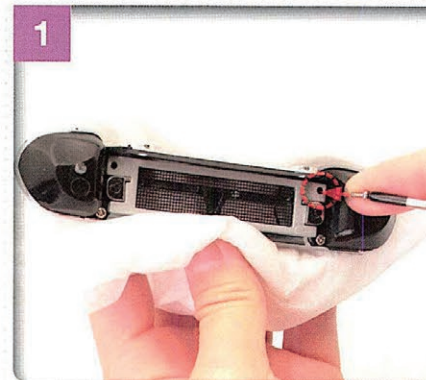
- ・プラスドライバー(1番)
- ・ホビー用ダイヤモンドヤスリ

### 用意するもの

- ・フロントマスク(53号で仮組みしたもの)
- ・ヘッドライト(54号で仮組みしたもの)
- ・リトラクタブルリンクカバー右(54号で提供し、保管しておいたもの)
- ・リトラクタブルリンクカバー左(54号で提供し、保管しておいたもの)
- ・サービスリッド(56号で仮組みしたもの)
- ・柔らかい布(タオルなど)
- ・マスキングテープ



今号で  
作業する箇所



53号で仮組みしたフロントマスク(フォグランプユニット+フロントグリル)と③ビス(HHタイプ)を用意し、写真で示したビス穴にセットする。フロントマスクは指先の皮脂が付着しないよう、ティッシュペーパーに包んだまま持つようにしましょう。



1番のプラスドライバーを使い、HHタイプのビスをねじ込む。強くねじ込み過ぎるとパーツを傷めてしまうので、パーツがガタつかななくなったら、ねじ込むのをやめよう。



もう片側のビス穴にもHHタイプのビスをセットし、2と同じ要領でねじ込む。



4  
54号で仮組みしたヘッドライトを用意し、写真で示したビス穴に⑥ビス(Pタイプ)をセットする。ヘッドライトが、リトラクタブルリンクバーにしっかりとめ込まれていることを確認してから作業しよう。



5  
1番のプラスドライバーを使い、Pタイプのビスをねじ込む。ヘッドライトカバーがガタつかなくなったら、ねじ込むのをやめよう。



6  
もう片側のビス穴にもPタイプのビスをセットし、⑤と同じ要領でねじ込む。



7  
54号で提供したリトラクタブルリンクカバー左を用意し、写真で示した方のヘッドライト底面にセットする。写真では右に見えるが、こちら側はボディに取り付けた際の“左”になる。



8  
リトラクタブルリンクカバー左から突き出している取り付けポストをヘッドライト底面の穴に差し込み、その下に見えるビス穴を、リトラクタブルリンクバーのビス穴に重ねる。



9  
④ビス(Oタイプ)を用意し、写真のビス穴にセットする。

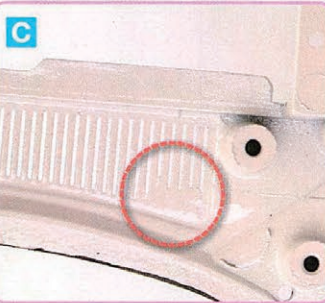
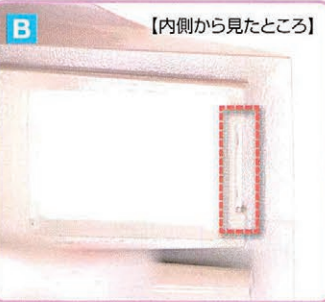
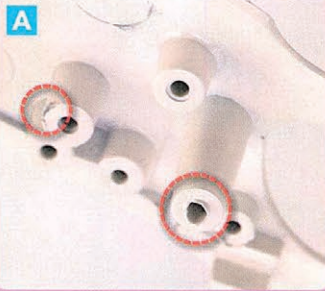
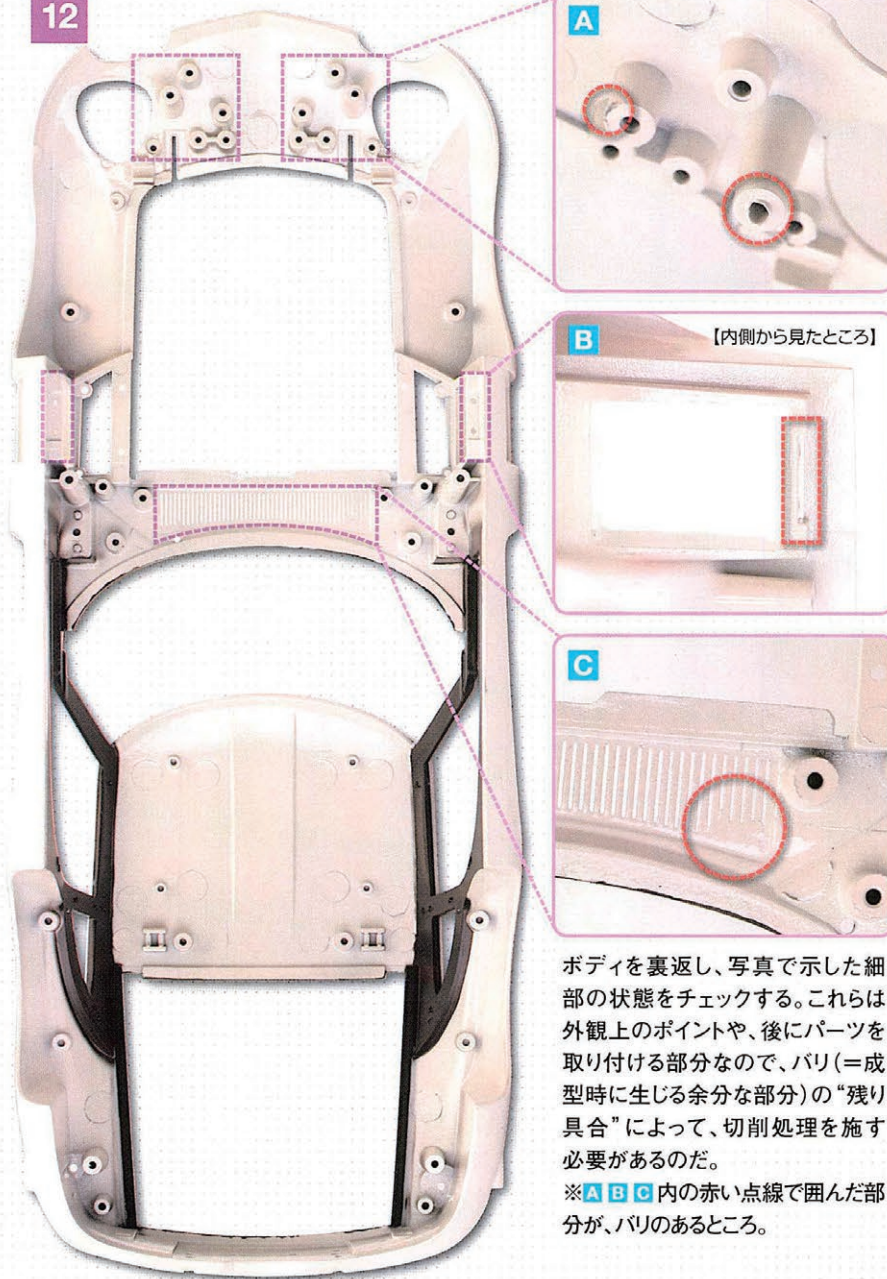


10  
1番のプラスドライバーを使い、Oタイプのビスをねじ込む。リトラクタブルリンクカバー左がガタつかなくなったら、ねじ込むのをやめる。



11  
54号で提供したリトラクタブルリンクカバー右を用意し、⑦～⑩と同じ要領でヘッドライト底面に取り付ける。

12



ボディを裏返し、写真で示した細部の状態をチェックする。これらは外観上のポイントや、後にパーツを取り付ける部分なので、バリ(=成型時に生じる余分な部分)の“残り具合”によって、切削処理を施す必要があるのだ。

※**A B C**内の赤い点線で囲んだ部分が、バリのあるところ。

13



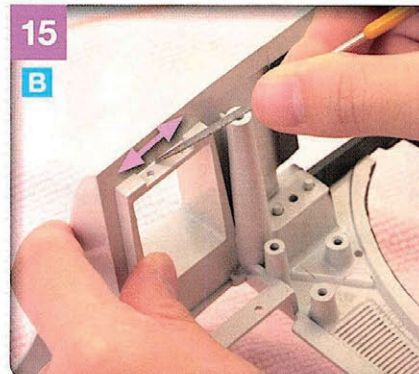
フロントウインドウ前の細いスリット部分は、スリットがバリでふさがりやすい。ホビー用ダイヤモンドヤスリを用意し、先端部分で慎重にバ리를削り取る。スリットに先端を軽く押しあてて、線を引く感じで少しずつ削ろう。なお、ボディが傷つくのを防ぐため、タオルなどを敷いた上で作業しよう。

14



写真上がバ리를削る前の状態で、写真下が削り取った状態だ。ボディ裏面は、モデル完成時には外側から見えなくなるので、写真のように多少の傷が付いたとしても問題はない。

15



ボディ両サイドに設けられたサービスリッド下部のスリットには、56号で仮組みしたサービスリッドのヒンジ部分が差し込まれる。そのため、スリットがふさがっていると取り付け作業ができないので、事前にバ리를取り除いておく。

16

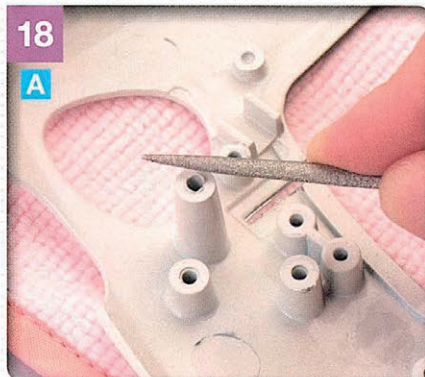


56号で仮組みしたサービスリッドを用意し、写真で示したスリットへサービスリッドヒンジを差し込んでみよう。



17

写真のように、サービスリッドヒンジが真っすぐ奥まで差し込めればOKだ。途中で引っ掛かる、もしくは差し込めない場合はバリが残っているので、スムーズに差し込めるようになるまで根気よくバリを削り取ろう。確認したら、サービスリッドヒンジは抜いて保管しておく。



18

A

ボディ裏面に突き出したポストは、シャシーなどのパーツを取り付ける重要な部分だ。写真のように、ビス穴の縁にバリが残っている場合は、事前に削り取っておこう。



19

17で組み立てたヘッドライトを用意し、写真で示したボディ裏側の取り付け位置にセットする。



20

この部分に、リトラクタブルリンクバーがはまる。

リトラクタブルリンクバーがボディ裏面のホルダー部分にはまるので、外れないよう保持したままボディを表側に引っ繰り返す。



21

通常はほぼフラットになっている。

後端が下に落ち込んだようになっている場合。

左右ヘッドライトカバーと、ボディ上面との位置関係を確認する。写真では、ヘッドライトカバー右の後端部分が下がっているように見えるが、これはパーツの“塗装被膜の厚さ”が原因なので、簡単に対処できる。なお、塗装被膜の厚さには個体差が生じてしまうので、必ず“自分のボディ&パーツの状態”をチェックしよう。



22

左右のどちらか下がっている方をダイヤモンドヤスリで削る。

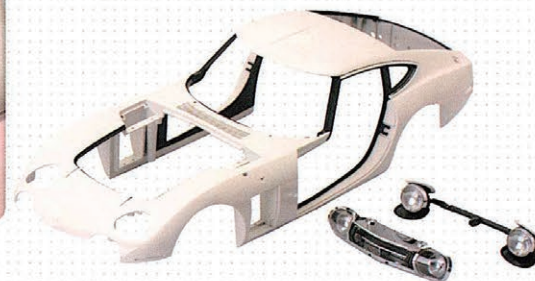
下がってしまった側のヘッドライトカバーにマスキングテープを貼り、リトラクタブルリンクバーの写真で示した部分をホビー用ダイヤモンドヤスリで削る。この部分の塗装を剥がしても、完成時には見えなくなるので問題はない。



23

リトラクタブルリンクバーの塗装被膜を削り取り、再度はめ込んだ状態。今度は左右のヘッドライトカバーがボディとフラットになった。この状態になるまで、22の作業を繰り返そう。

## 今号の完成



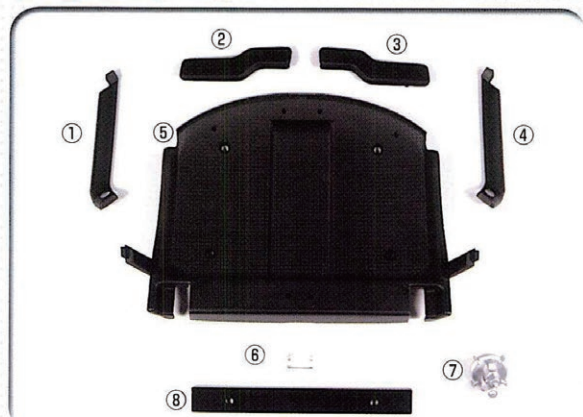
これで今回の作業は完了だ。ボディのバリ、特に“細いスリットに残ったもの”を取り除く作業は面倒だが、処理を施したボディの完成度は大きく高まる。より高品質なモデルに仕上げるためにも、入念にバリの除去を行おう。

59号

# フロントウインドウと左右ドアを ボディに取り付ける

今号では、44~47号で組み立てた左右の「ドア」と、55号で組み立てた「フロントウインドウ」、57号で組み立てた「エアインレット」「エアアウトレット」などをボディに取り付ける。注意してほしいのはフロントウインドウの取り付け作業で、やや“コツ”が必要になる。Webページに作業工程の動画を用意したので、それを見ながら慎重に作業を進めてほしい。 <http://deagostini.jp/tgt/>

## 今号のパーツ



- ①右Aピラークッション×1
- ②右サンバイザー×1
- ③左サンバイザー×1
- ④左Aピラークッション×1
- ⑤ルーフクッション×1
- ⑥ルームランプ×1
- ⑦ブレーキブースター×1
- ⑧バックドアヒンジカバー×1

※今号で提供したパーツは使用しないので、中身を確認して保管しておこう。

### 使用する道具

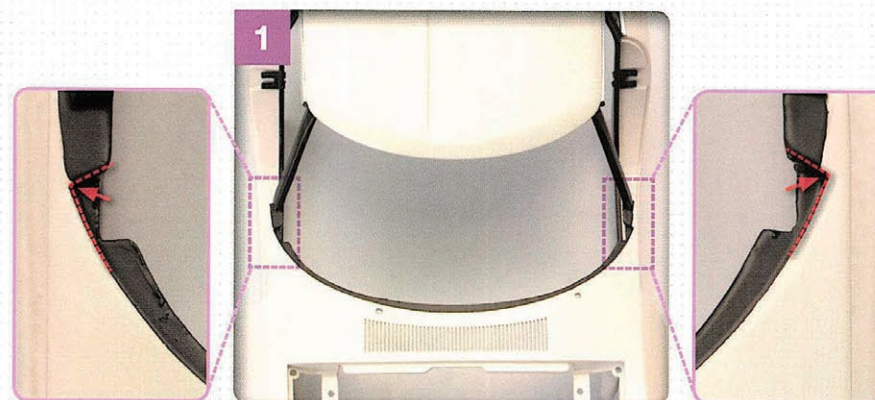
- ・プラスドライバー(1番)
- ・ホビー用ダイヤモンドヤスリ

### あると便利な道具

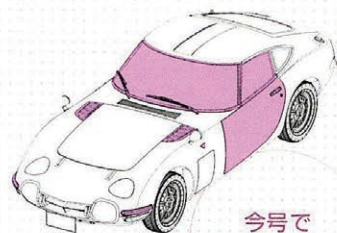
- ・多用途接着剤  
(セメダイン「スーパーX-G」を推奨)

### 用意するもの

- ・右ドア(45号で組み立てたもの)
- ・左ドア(47号で組み立てたもの)
- ・右フロントバンパー(52号で提供したもの)
- ・左フロントバンパー(52号で提供したもの)
- ・フロントウインドウ(55号で組み立てたもの)
- ・エアインレット(57号で組み立てたもの)
- ・エアアウトレット(57号で組み立てたもの)
- ・左ワイパー(57号で提供したもの)
- ・右ワイパー(57号で提供したもの)
- ・側面エンブレム×2(57号で提供したもの)
- ・ボディ(58号の工程を終えた状態のもの)
- ・EEタイプのビス×2(58号で提供したもの)
- ・柔らかい布(タオルなど)



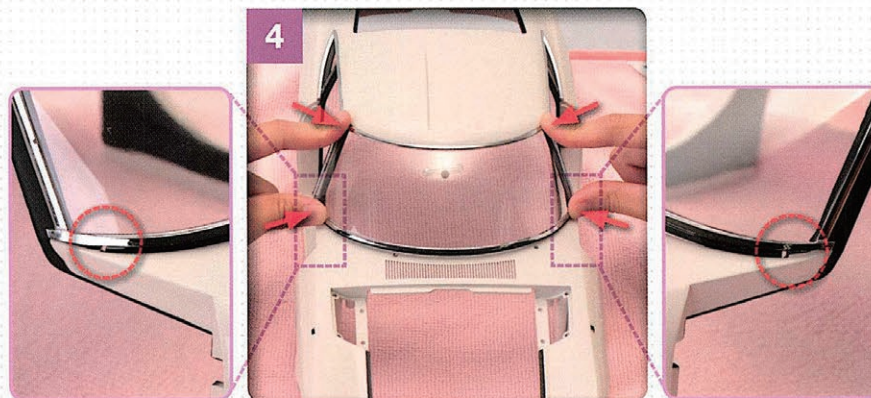
フロントウインドウの取り付け作業を行う前に、ボディ側の取り付け部分を確認しておく。写真で示したフロントウインドウ取り付け部の下側両端に“切り欠き”が設けられており、そこにフロントウインドウ下部をはめ込む構造だ。



55号でルームミラーを取り付けたフロントウインドウを用意し、写真のように両手で保持する。次にボディのフロントウインドウ取り付け部の正面から、上部3カ所の“ツメ”をルーフ前端の下にもぐり込ませる。なお、ボディが傷つくのを防ぐため、タオルなどの柔らかい布を敷いた上で作業しよう。



3  
フロントウインドウ上部の“ツメ”を、ルーフ前端の下にもぐり込ませた状態。このとき、フロントウインドウの下部は少し浮き上がっている。



4  
写真のように、フロントウインドウ上部の両端を指先でしっかりと押さえたまま、両手の親指でウインドウ下部の両端を強く内側に押しつつ、下へ差し込む。こうすることで、ウインドウ下部の取り付け部両端が、1で確認した切り欠きにはめ込まれる。



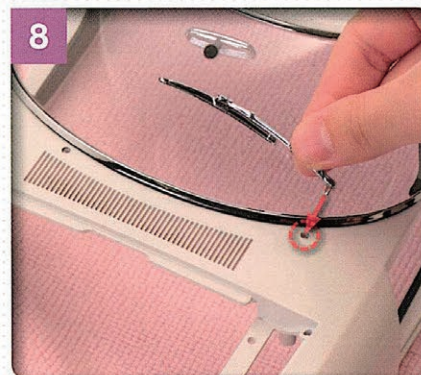
5  
ウインドウ下部の左右は、ボディにはめ込まれているが、中央付近は浮き上がっている。  
4の状態を低い位置から見たところ。この段階では、フロントウインドウの上部と、下部の両端はボディにはめ込まれているが、ウインドウ下部の中央付近はまだ浮き上がっている。



6  
写真で示した場所を指先でしっかりと押さえたまま、両手の親指でウインドウ下部を端から中央に向かって強く押し込んでいく。「パキッ」という音がするが、それは「ウインドウ下部がボディにはめ込まれる際の音」だ。  
外側から中央に向けて、左右を同時に押し込んでいく。



7  
フロントウインドウの取り付けを終えた状態。



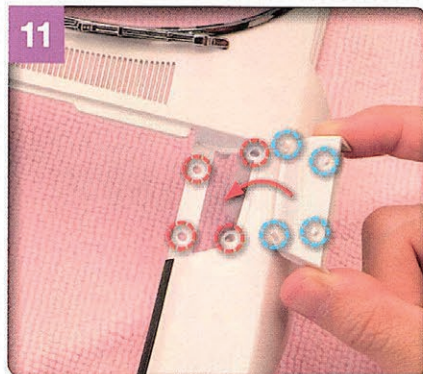
8  
57号で提供した左ワイパーを用意し、写真で示した取り付け穴にセットする。なお、ワイパーの左右を見分けるには、ワイパーブレードの“曲がり具合”をチェックしよう。より曲がっている方が右、そうでない方が左だ。



9  
左ワイパーの取り付けピン部分を真っすぐに押し込む。取り付ける際のワイパーの向きは写真を参考にしよう。また、取り付け部の穴が小さく、差し込みにくい場合は、ホビー用ダイヤモンドヤスリの先端を使って、取り付け穴に付着した塗料を少し削り取っておく。



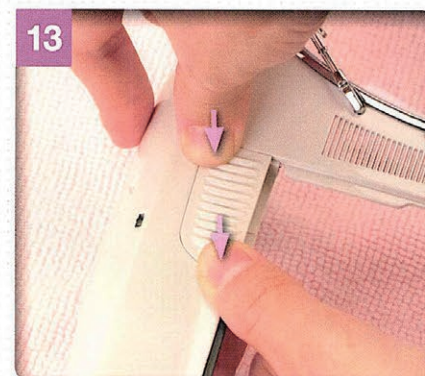
10  
続いて57号で提供した右ワイパーを用意し、8、9と同じ要領で写真の位置に取り付ける。



11  
57号で組み立てたエアインレットを用意し、写真で示した位置にセットする。



12  
エアインレットを真上から押し込み、ボディに取り付ける。エアインレットの縁が、ボディの表面と“ツライチ(=平らで、出っ張っていない状態)”になるよう押し込もう。



13  
57号で組み立てたエアアウトレットを用意し、11、12と同じ要領でボディに取り付ける。



14  
57号で提供した側面エンブレムを用意し、写真で示した取り付け穴にセットする。取り付けピンが差し込みにくい場合は、ダイヤモンドヤスリの先端を使って、取り付け穴の内側に付着した塗料を削り落としておこう。



15  
側面エンブレムを押し込み、ボディに取り付ける。なお、このエンブレムはボディ表面から“少し出っ張った状態”で取り付けられる。



16  
もう1個の側面エンブレムも、14、15と同じ要領で、ボディの反対側に設けられた取り付け穴に押し込む。



17  
52号で提供した右フロントバンパーを用意し、写真で示したボディのスロットにセットする。なお、フロントバンパーは左右の違いがあるので、事前に52号の組み立てガイドで確認しておこう。





18 右フロントバンパーを真っすぐに押し込み、ボディに取り付ける。このとき、フロントバンパー外周部の“黒い部分”を押すと、塗料はがれてしまう恐れがあるので注意しよう。



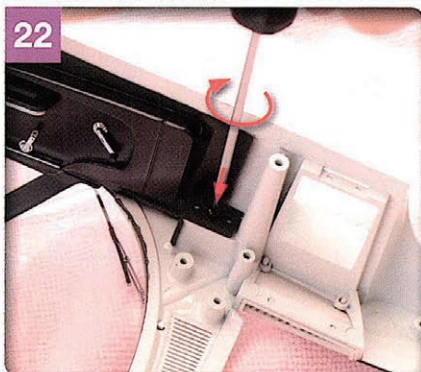
19 17、18と同じ要領で、52号で提供した左フロントバンパーをボディに取り付ける。



20 ボディを裏返して置き、45号で組み立てた右ドアを写真のようにセットする。



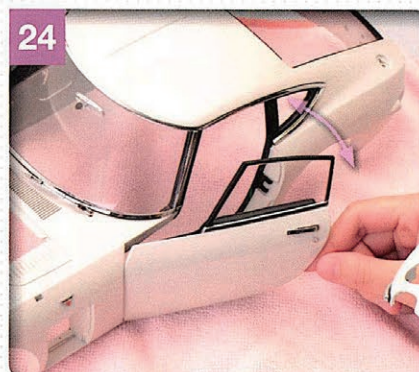
21 ドアヒンジをボディの取り付け部にはめ込み、ビス穴の位置を合わせておく。



22 58号で提供したEEタイプのビスを用意し、21で示したビス穴にセット。1番のプラスドライバーを使い、ビスをねじ込んでドアヒンジを固定する。このとき、ドアは“閉じた状態”にして作業しよう。



23 同じくEEタイプのビスを使い、20~22と同じ要領で47号で組み立てた左ドアをボディに取り付ける。



24 左右ドアの取り付けが完了したら、開閉の動作をチェックする。ドアヒンジが確実に固定されていないと、ドアを開けたときにガタついてしまうので、その場合は再度EEタイプのビスを締め込む。

### 今号の完成



これで今回の作業は完了だ。フロントウィンドウの取り付けは“コツ”がいるため、やや難しい作業になるかもしれない。もしも作業中にフロントウィンドウの外周に取り付けられたリム(メッキ処理された窓枠)が外れてしまった場合は、フロントウィンドウをボディから取り外し、多用途接着剤を使ってリム部分を接着する。接着剤が完全に硬化してから(約24時間後)作業を再開しよう。